

コロナ禍で異変!? 今時の就職活動 学歴フィルターの実態とは?

福島 直樹 (高37回)

皆様は進学校のご出身ということもあり、お子様、お孫様の大学進学に関心を持たれる方が多いと思われる。一方で、昨今では進学だけでなく、就職にも強い関心を持つ方が増えているようです。そこで今回は、最近の就職活動の実態や、学歴フィルターについてお話しさせていただきます。

早期化と高倍率化

最近の就活の特徴は、なんといっても早期化です。皆様は、企業がいつ頃から採用内定を出すとお考えでしょうか? 答は大学3年10月ごろから。想像以上に早いとお感じになったのではないのでしょうか?

大学3年の4月から夏のインターンシップ(就労体験)に向けてエントリーシート(E S)を作成する作業が始まります。インターンシップで優秀と判断され



●ふくしま・なおき
就職採用コンサルタント。山梨大学非常勤講師。飯田市上久堅出身。竜東中学、上智大学文学部史学科卒。株式会社博報堂を経て独立。日経新聞、NHK、アベマプライムなどにも出演。

た学生には早期選考が案内され秋以降に内定が出ます。もちろんこれは非常に早いケースであり、大量に内定が出るのは大学4年になる前後の3月、4月ごろです。ぜひお子様、お孫様には3年夏からインターンシップに参加させましょう。もちろん1、2年生でも機会があれば参加してみると良いでしょう。

もう一つの就活の特徴は高倍率化です。『就職四季報』によればハウス食品の競争倍率は文系で292倍。理系76倍となっています。文系では292人に1人しか就職できない激戦となります。面接の手前の書類選考も厳しいものになっており、文系理系合計で5540人がE Sを提出し、選考を通過した者は994人、内定者はたった50人です。

このような人気企業は学生から送られてくる大量のE Sに困っていることも事実。そこで使用が疑われる

のが学歴フィルターです（ハウス食品が学歴フィルターを使用しているかどうかは不明）。

学歴フィルターとは？

例えばESの書類選考において、一定の偏差値でフィルターをかけ、有名大学の学生を優先的に選抜するなどの行動が疑われています。

また会社説明会の登録画面において、上位大学の学生は登録出来るのに、低偏差値大学の学生は登録できない事実が発覚したこともありました。SNSで拡散され大炎上となりました。

このような学歴フィルターの問題点とは何でしょうか？ 私は実に多くの大学生に接してきましたが、どんな大学にも必ず優秀な学生はいます。しかし上位校の学生だけを集めた方が、優秀者の出現率が高いこともまた事実です。つまり企業が学歴フィルターを使用する理由は合理性があるからです。

しかし社会全体で見た場合、学歴フィルターは格差を固定する可能性が高く問題と言えるでしょう。

東大の調査にもあるように、東大生の親の世帯年収は全国平均に比べかなり高いことがわかっています。つまりお金持ちの子供が上位校に進学し、その後有利な

就職をすることで、お金持ちが再生産されるのです（これらの問題は拙著『学歴フィルター』をご覧ください）。

学歴フィルターを乗り越えるには？

このような学歴フィルターを乗り越える方法はあるのでしょうか？ 最近ではES書類選考と同時に筆記試験も併せておこない、総合判定する企業が増えていきます（これも一種の学歴フィルター炎上対策と考えられます）。

低偏差値大学の学生でも、筆記のスコアが高ければ、次のステップに進むことができます。スコアが高いのなら、思考力や目標達成意欲が高いのでは？と評価する人事が多いことも事実です。心配される方はご参考になさって下さい。

高倍率な実態や、学歴フィルターなど、就活には必ず苦しいと感じる時があります。ただお子様、お孫様が人間的に成長できる機会でもあります。ぜひ温かく見守ってあげて下さいませ。



講演の様子